

国重要文化財（美術工芸品）の指定について

来る3月18日（火）に国の文化審議会が開催され、河内長野市内の重要文化財（美術工芸品）として1件が文部科学大臣に答申される予定です。なお、今回、新規登録される予定の市内の有形文化財（美術工芸品）は、下記の1件です。

記

1. 名称

書跡・典籍 遊仙窟残巻 一帖（鎌倉時代） 詳細別紙

※本資料の取扱については、文化庁の指示により下記のとおりお願いします。なお、17時までに審議会が終了しない場合は、文化庁から連絡があります。

ラジオ・テレビ・インターネット：平成26年3月18日文化審議会終了後（17時メド）解禁

紙面：平成26年3月19日 朝刊から解禁

※写真データが必要な場合は、河内長野市の問い合わせ先までご連絡ください。



写真

ゆうせんくつ
遊仙窟残巻

問い合わせ先

◎文化庁

文化庁文化財部美術学芸課 調査指導係

TEL（直通）03-6734-2887

◎河内長野市教育委員会ふるさと文化課

TEL 0721-53-1111

●^{ゆうせんくつ}遊仙窟残巻 一帖

○大きさ 縦16.5cm × 横15.5cm

○所有者 宗教法人^{あまのさんこんごうじ}天野山金剛寺（河内長野市天野町996）

○所在地 天野山金剛寺（註1）（河内長野市天野町996）

TEL 0721-52-2046

○時代 鎌倉時代

○文化財の説明

- ・唐代の文人・^{ちようさく}張鷟（註2）が、7世紀末頃に撰した伝奇小説です。旅人が深山幽谷に迷い込み、二人の神女の住む宿で一夜を過ごし、歓楽を尽くすというストーリーです。
- ・本国の中国では早くに散佚した小説ですが、日本には8世紀初めにもたらされ、人気を博して貴族の必須教養となり、日本上代の文学に大きな影響を与えました。
- ・『万葉集』では、^{おおとものやかもち}大伴家持が^{さかのうえのだいじよう}坂上大嬢に贈った歌や、^{おおとものたびと}大伴旅人の「^{まつら}松浦川に遊ぶ序」、^{やまのうえ}山上憶良の「^{のおくら}沈痾自哀文」の文中に、『遊仙窟』にみられる表現の影響が窺われます。
- ・完本である醍醐寺本及び真福寺本は、すでに重要文化財に指定されています。今回の指定候補である金剛寺本は、全体の40%程度を残すのみですが、鎌倉時代後期の書写本で、現存最古の写本です。
- ・『遊仙窟』の巻末の注には、漢語の訓読に関する伝承を詳しく記していることから、国語学的にも重要な作品です。

（註1）天野山金剛寺

真言宗^{おむろ}御室派の大本山。聖武天皇の勅願により、僧・行基が開いたと伝える。平安時代末に、後白河法皇とその息女・八条院の帰依を受けて^{あかんしようにん}阿観上人が再興した。

明治時代初めまで高野山が女人禁制であったのに対し、八条院が女性の参詣を許可したことから「女人高野」とも呼ばれた。南北朝時代には、南朝・北朝双方の^{あんざいしよ}行在所（天皇の^{ぎようこう}行幸時の仮宮）となった。

建造物・美術工芸品ともに、数多くの国宝・重要文化財をもつ。

（註2）^{ちようさく}張鷟

中国唐代の文人。^{あざな}字は文成。